

平成 21 年 12 月 1 日  
商 工 中 金

## 山林の間伐材を活用して木炭を作る津軽国土保全協同組合を 金融面からサポート！

商工中金が事業拡大に伴う資金 1500 万円を融資

商工中金（青森支店）は、11 月 27 日、山林の間伐材をチップ化して木炭を作る事業に取り組む津軽国土保全協同組合（本社：青森県つがる市、代表者：倉水則秋氏）に対し、炭化炉プラントを移設するための資金等 1,500 万円を融資しました。

津軽国土保全協同組合は森林を伐採した後の間伐材を炭にして土にすき込み、土壌の改良や水質浄化、二酸化炭素削減に貢献する、循環型環境ビジネスを行うべく平成 20 年 8 月に設立されました。平成 21 年 4 月より炭化炉プラントで間伐材をチップ化し木炭へ加工する事業を開始しています。

この木炭はメロンの栽培等（注 1）に活用され、地球温暖化防止等、環境に配慮した栽培法として注目を集めています。

また、今後は木炭化しないチップについても、化石燃料に代わるエネルギー資源としてボイラー等の燃料として販売、供給していく予定です。

津軽国土保全協同組合は、生産量拡大のため、つがる市の協力を得て、つがる市内の廃校となった校舎を無償で借り、炭化炉プラントを移設し、本格稼働させます。本資金はその資金に充当されます。

商工中金は、引き続き、環境配慮に取り組む中小企業に対して積極的に金融面、情報面からサポートしていきます。

### ◆津軽国土保全協同組合の概要

所在地	青森県つがる市木造越水屏風山 3	出資金	90 万円
代表者	倉水 則秋	組合員数	11 名（平成 21 年 7 月現在）
業 種	チップ加工業及び林業	設 立	平成 20 年 8 月

#### 注 1

（参考）

つがる市はカーボンオフセットに積極的に取り組んでおり、木炭をすき込んだ土壌でメロン等の特産品を生産する業者を積極的に支援している。肥料や農薬の製造過程やトラクターの使用で CO2 が排出されるが、畑に木炭をうめ込むことで排出見込み量を上回る CO2 を土の中に隔離する効果があるため地球温暖化防止に貢献するメロンとして評価を受けている。